

幼児保育学科学生による音楽ボランティア体験 — 意識の変容と表現力の向上に着目して —

Musical volunteer experience of the students of the early childhood education department
— Focusing on the development of their self-awareness and self-expression —

浦田 真理子¹⁾ 山口 真理¹⁾ 平野 光佐登²⁾
Mariko URATA Mari YAMAGUCHI Misato HIRANO

1) 松本短期大学幼児保育学科 2) 松本市野溝保育園(保育士)

要旨

保育や幼児教育現場で求められている資質、現状を踏まえ、学生達に現場で役立つことを少しでも身につけてもらえるよう、現在までに様々な音楽ボランティアを行ってきた。それについてのアンケートによると、学生達の意識は変わり、表現力も向上し、仲間に対する思いやりが生まれ、意欲、自信につながっている。そして、多くの学生が「やって良かった」と回答している。また、地域の方々の温かい協力と支えがあつてこそ、ボランティアが成り立っている。

学生達の忙しい状況の中で、ボランティアをサポートすることは工夫が必要であるが、学生達の気付きを最大限に活かせる配慮を今後も検討していきたい。

【キーワード】音楽ボランティア 意識の変化 表現力 企画力 地域との連携

はじめに

現在、保育や幼児教育の現場では、即戦力として役立つ技術や知識が第一に求められている。更に、豊かな感性を持ち、保育者としての仕事を理解し、社会人としてのマナーを身につけ、積極的な姿勢で仕事をする事が求められる¹⁾。

従って、学生は現場に出る前に、様々な経験を積んでおく必要がある。本学では、「地域ボランティア演習」という科目が開講されており、地域活動に参加することができる²⁾。また、幼児保育学科の各ゼミナールにおいても、ボランティア活動を行っており、学科としてもボランティアの奨励、支援をしている。

浦田・山口は、毎年、ゼミ学生を中心に、音楽のボランティア活動を、地域の方々の協力のもとに行っている。それらの活動についての成果を考察するため、在学生、卒業生にアンケートを実施し、更に地域の方々のコメントも併せ、今後のボランティアのあり方、現場での役立て方等、様々な角度から探ってみた。

1. 音楽のボランティア活動の経緯

当学科での音楽ボランティアは、ゼミナール、保育内容音楽表現Ⅱの受講生、希望者、幼児保育学科と看護学科(ストレスと癒しの受講生)との合同メンバー、幼稚園に勤務している卒業生と在学生との合同メンバー等で、実施してきた。

場所は、市と共催で行うクリスマス会、保育園、

幼稚園、障がい者施設、児童館、高齢者福祉施設、乳児院、児童養護施設、病院である。

毎年10月に開催される学園祭においても、地域貢献の一部として、浦田ゼミ、山口ゼミとも、それぞれ発表を行っている。

そして、各ゼミでの経験をもとに、12月には双方の特性を活かし、合同で行うクリスマスコンサート(障がい者施設、市と共催で行うクリスマス会、幼稚園、病院)につなげ、学生達が更に成長できるように考慮している。

2. 今年度のボランティア活動

1) 4月～10月の各ゼミ活動

(1)7月 障害者施設：山口ゼミ(1,2年生)

内容:アンパンマン、トトロの劇、ドレミパイプ、ベル演奏、人形を使っての手あそび、合唱、ダンス

ダンスは、大変喜ばれ、一緒に踊るなど、利用者さんと親しくふれあうことができた。2年生は、昨年に引き続いて3回目の発表となり、利用者さんも覚えていて下さったので、積極的に声掛けをしながら、また、利用者さんの反応を見ながら皆で協力して行っていた。

入学間もない1年生は、2年生のリードのもと、劇の内容を考え、意欲的に行っていたが、演技力という点ではまだ未熟さを感じた。

(2)9月 乳児院：山口ゼミ(1,2年生)

内容:絵本を用いたリトミック

学生が絵本の中に出てくる動物になり、子ども達もいっしょに音楽に合わせて身体表現を行うということと、ピアノに合わせて緩急のステップを踏むというものであった。1年生が動物になり、2年生がピアノを担当したが、2年生は、1年生の動きを見ながらリズムカルに演奏していて、成長が伺える余裕のある姿であった。1年生は、恥ずかしさがあるのか、ぎこちない動きもあり、固さが目立った。その後、子ども達と触れ合う時間を設けて頂き、個々に関わりを持つことができ、貴重な体験をさせて頂いた。

(3) 10月 学園祭

①浦田ゼミ (1,2年生、卒業生、ゲスト)

内容：ピアノ、フルート、ヴァイオリン演奏
2台ピアノのデュオ、アンサンブル
(チューバ、コントラバス、ピアノによる)、
合唱等

毎年恒例になっている「題名のない音楽会」を、学生の自由なスタイルを尊重しつつ、他のゼミ生、卒業生、ゲスト出演者を交えて行った。毎年歌い継がれているゼミの合唱曲は、卒業生も一緒に歌うことができ、卒業生との交流も目的としている。自分たちでプログラムを組み、会場作り、司会等を考え、一緒に行なう仲間との連携においても様々な経験をした。

②山口ゼミ (1,2年生)

内容：ベル演奏、手遊び、合唱、ダンス

音楽の発表と地域の方々との交流を行った。毎年、この学園祭から1年生が主体となっていくので、集客のためのチラシ作りやポスターの作成、また、企画や進行を考えるなど、初めての経験が多く、戸惑いながらも、協力しあい、お互いの得意分野を活かして行っていた。2年生も着ぐるみをきて、ダンスに加わるなど、1年生をサポートしていた。

2) 12月のクリスマスコンサート

12月には合同で、以下のクリスマスコンサートを行った。

①12月9日(水) K障がい者施設

参加者 20名

(浦田ゼミ、山口ゼミ1年生)

②12月13日(日) A講堂ホール

参加者 29名

(浦田ゼミ、山口ゼミ、石毛ゼミ・他のゼミ1年生)

③12月16日(水) S認定こども園

参加者 27名

(浦田ゼミ、山口ゼミ、石毛ゼミ1年生)

プログラム内容は、3か所で微妙に違うが、一番出し物の多かった②のプログラムは次の通りである。

〈プログラム〉

1 ミュージックベル

「君をのせて」「小さな世界」

2 パフォーマンス：カップス

「ジングルベル」

3 劇 「白雪姫」

4 手あそび歌「クリスマス」

5 アンサンブル

「ディズニーメドレー」

(フルート、クラリネット、
トランペット、トロンボーン、
チューバによる)

6 合唱 「COSMOS」

7 大型絵本「ねずみくんのクリスマス」

8 クリスマスソング

「サンタが町にやってくる」

「赤鼻のトナカイ(手話付き)」

9 ダンス 「しまじろう」

他のゼミと協力して力を合わせ、地域の方と連携し、それぞれの会場での対象者に対して、どのように楽しんでもらえるかを工夫し、出演者全員でステージを作り上げた。

3) 各施設との連携状況

(1)K障がい者施設 2010年～2015年

療育活動の一環として、2010年より毎年7月と12月に伺わせて頂いている。担当の方から利用者さん達の様子をお聞きし、分かりやすく、楽しんで頂けるプログラムを学生自身で考えている。毎年7月と12月に伺っているが、毎回楽しみにして下さるので、学生達もそれを励みに、練習を重ねている。特に、ダンスになると、利用者さん達は、立ち上がって笑顔で踊り始めたので、学生達も利用者さんの中に入って嬉しそうに声をかけながら一緒に踊っていた。最後に、利用者さんから、学生一人ひとりに、親しみをこめた握手と共に、手作りクッキーのプレゼントがあった。職員さんたちは、利用者さんとのような触れ合いの機会を作ってください、学生達を温かくサポートして下さっている。

(2)A講堂ホール 2009年～2015年

市との共催で、2009年より毎年12月に行っている。学生の出し物の他、市の図書館の出し物では、手あそび歌、大型絵本の読み聞かせがあっ

た。

事前に職員の方が2名、本学に見え、学生達と打ち合わせをし、双方の出し物を検討し、企画の段階から一緒に内容を考え、ステージを作り上げた。職員の方は、学生達の様子を温かく見守り、それぞれの気持ち、やる気を大切に育ててくださっている。劇の大道具も、本学まで取りに来てくださり、司会進行も学生に全面的に任せてくださる等、様々な配慮をしてくださった。

当日は、9時半に集合し、図書館の方との打ち合わせ、リハーサルをじっくり行い、本番は14時から1時間くらいであった。園児対象のコンサートで、園児・保護者を合わせて60名位の参加があった。

大きなステージで、学生達は緊張しながらも楽しく経験できた様子であった。共催の楽しさ、難しさも含め、多くのことを学んでいる。

(3) S認定こども園、2009年～2015年

園の意向を伺いながら、準備をしている。前述の2か所で行った後での発表なので、学生達も随分慣れてきており、演技力、演奏にも磨きがかかってきていた。学生達には、園児からお菓子のプレゼントがあった。

園では、学生のボランティアの様子を、ホームページに載せ、学生達に励ましのメッセージをくださっている。

3. 調査方法

1) 調査対象者

ボランティアに参加した在学生34名（1年生19名、2年生15名）卒業生6名、来場して下さった保護者の方23名、共催、協力して下さった地域の方3名

2) 調査時期

平成27年12月

3) 調査方法

ボランティア終了後、アンケート用紙を配布し、調査の目的を説明し、協力を依頼した。すべての項目について自由記載である。また、地域の方のコメントは、インタビュー形式で依頼した。

4) 倫理的配慮

辞退することによって不利益は生じないこと、情報はすべて匿名化すること、紙データについてはシュレッダー等を用いて破棄し、メールにおいてはすべて消去することとした。

本研究は、松本短期大学倫理委員会15-9号の承認を得て実施している。

4. アンケート結果

1) 在学生のアンケート

（1年生19名、2年生15名）

(1) 各施設で印象に残ったこと

A. 今年度（現1年生）の活動から

①乳児院（2年生のコメントも含む）

「子ども達と手をつないだり、抱っこしたり直接関わることができた」「リトミックを一緒に楽しむことができた」が大多数であった。

また、「子ども達がアニメのキャラクターに興味を示した」との気付きもあった。

②K障がい者施設

「利用者さんが一緒に歌ってくれたり、元気一杯にダンスを楽しんでくれた」「近くにいて手遊びをすると一緒にやってくれた」「障害のある方の答えは返ってこないと思っていたが、楽しそうに笑顔で聴いてくれた」「手作りのクッキーを手渡してくれ、触れ合うことができた」などの感想があり、それぞれが音楽を通じ、利用者さんと触れ合うことに喜びを感じたようである。

③A講堂ホールでのクリスマス会

「大きなホールで、大勢の前で発表の機会を得た」「アルプちゃんやサンタクロースに扮装して子ども達と触れ合えた」「司会が良い経験になった」「ダンスを楽しく踊ってくれた」「静かに集中して聴いてくれた」などの感想である。初めての大きなホールでの経験と、地域の多くの子ども達との触れ合いは、学生達の自信につながったようである。

④S認定こども園

「3回目の発表で緊張も取れ、自分達も楽しめた」「大勢の子ども達の前で話すことができ、良い経験になった」「前回より余裕ができ、子ども達の顔を見て行えた」などの感想が多数で、だいぶ慣れてきたようであった。

また、「知っている曲は、一緒に歌ってくれた」「劇の時、子ども達が様々な反応をして、たくさん笑ってくれた」「子ども達の反応が良く、こちらも楽しかった」「園児には難しい合唱でも静かに聴いてくれた」「知らない手遊びを覚えて、一緒にやってくれた」など、子ども達に関する感想があった。3回目の発表で、子ども達の反応を見ながら、発表、進行する余裕も生まれ、経験することの大切さを学んでいる。

B. 昨年度（現2年生の1年次）の活動から

昨年度は、今年度と同様の活動の他、最終は病院でのボランティアで締めくくった。昨年度

を振り返っての2年生の回答は、1年生と類似したのも多かった。その他の回答としては、以下のものであった。

A 講堂ホールのクリスマス会については、「ゼミ合同で行ったので、合唱も盛り上がり、劇の幅も広がり、アンサンブルもできた。大勢で参加できて良かった」「お客さんの年齢層も広く、子どもから大人まで楽しんでもらった」「子どもが楽しんでいる様子を見て、来てよかったという保護者の声を聞いた」など、大きなステージは自分たちを大いに成長させてくれたという思いを持っているようである。

T 病院については、「病児達が音楽を楽しんでいる姿を見ることができた」「笑顔で反応を示してくれ、歌のリクエストをしてくれた」「楽器演奏（トランペット、コントラバス、ピアノ）を静かに聴いてくれた」「みんなが楽しみにしてくれて嬉しかった」「重度の方、軽度の方とも関わられた。音に合わせて体を動かしてくれた」「寝たきりの方が、音楽を聴くと身体を動かしてくれた」との感想であった。このボランティアは、看護学科学生10名と、幼児保育学科学生10名との参加であった。3か所の病棟を回り、病棟保育士をしている卒業生からも学び、冷静に状況を見極めつつ、楽しみながら演奏した。これを機に病棟保育士を目指す学生もでてきた。

「各施設で、得意な音楽を活かした」と回答している学生は、現在も得意分野を更に伸ばしている。

このような経験は、学生達にとって、将来の職業の方向性を考える良い機会になったようである。

(2) 地域貢献の一部である学園祭のゼミ発表から学んだこと、感じたこと

A. 浦田ゼミ

「先輩方やOGの演奏が素晴らしかった」「予想以上にお客さんが来てくれて緊張したが、2年生に助けられた」「心を込めてやれば、演奏が未熟でも想いは届く」「拍手が嬉しくて、来年も頑張ろうと思った」「ゼミでのまとまりが大切」「準備と段取りが大切」「協力は素敵」「卒業生と親しくなれた」「珍しい楽器（コントラバス、チューバ）で演奏すると喜ばれる」「ジブリ、ディズニーが喜ばれる」などの感想であった。

音楽室でのささやかなコンサートであったが、仲間との連携の大切さを学び、演奏する側、聞く側との波動の調和、喜びを感じることができ、もっと頑張ろうという意欲が生まれたようである。

B. 山口ゼミ

「子ども達は身体を動かすことが好きである」「幅広い年齢層に喜んでもらえるプログラムの難しさ」「異年齢のそれぞれの子ども達との対応が難しい」「親子ふれあいを意識した活動ができた」「参加型の発表で、子ども達と触れ合い、一緒に楽しめた」「定められた時間内におさめる難しさ」「初対面の人とも、音楽の力で親しくなれる」「臨機応変に対応」「準備の大切さ」「まず自分たちが楽しむこと」などの感想があり、地域の方々、音楽を通して触れ合う喜びと、また、様子を見ながら、臨機応変に行うことの難しさを感じたようである。

(3) ボランティアを通して学んだこと、考え方の変化

「まず自分たちが楽しむこと」「どんな演出を楽しんでもらえるか、対象になる人の視点に立って考える」「司会進行、その場に合わせた話し方」「臨機応変の大切さ」「準備をしてあれば本番は忙しくない」「喜んでもらいたい、楽しんでもらいたいと望むことが大切」「気付いたらすぐ行動」「練習の大切さ」との心構えに関する感想があった。

そして、「地域との連携の大切さ。関わる中で視野が広がった」「職員の方、子ども達（利用者さん）と一緒にひとつのこゝろを作り上げる喜び」「ボランティアを受け入れてくださる方の協力があって成り立つ」と、地域の方への感謝の気持ちが生まれ、皆で1つのことを作り上げる楽しさを感じたようである。

また、音楽に関しても、「音楽で会話しているような気分になった」「音楽によって、人との距離を縮められた」「音楽は様々な人と心を通じ合えるもの」との音楽の本質に関する感想があった。

その他、「様々な人と関われ、コミュニケーションの難しさを学んだ」「人見知りがなくなってきた」とのコミュニケーションについての感想もあった。

進行にあたっての楽しさと難しさ、地域の方や子ども（利用者さん）への気配り、思いやり、音楽の素晴らしさ等、学生それぞれが多くを感じてくれたようである。

(4) グループで行うことにより、友達から得たこと

「団結力」「お互いに助け合うことで仲間との関係が深まった」「情報交換の大切さ」「一人で

は考えつかない工夫ができ、様々な視点から考えられた」「自分の不足な面に気付いた」「仲間との会話が増えた」「仲間の温かい声かけが嬉しかった」「仲間の頑張る姿に刺激を受けた」などの感想があり、仲間同士の良い人間関係が築けたようである。

(5) 子どもの反応から感じたこと

「ダンスが人気」「面白い音、面白い行動に興味を示す」「アニメの曲を口ずさんだり、熱心に聴いてくれた」「楽器紹介が楽しそうだった。楽器を知っていて驚いた」「興味のあること、ないことの反応の違いがわかった」「子どもが楽しんでくれるのを見て、もっと色々なことをやろうというエネルギーをもらった」「子どもの楽しいと感じることと大人がそう感じることは違いがある」「曲と曲のつながりに時間がかかり、子どもを退屈させてしまった」などの感想からもわかるように、子ども達の反応から様々な気付きがあり、今後どのように子ども達と関わろうか指針が見い出せ、それぞれの意欲につながったようである。それぞれが工夫を重ね、今後につなげていくことだろう。

(6) 努力したこと

「まとめ役の大変さ。個々の事情を考慮した」とのゼミ長の感想の他、「合唱の綺麗なハーモニー、アンサンブルのそろった演奏、劇の台本作り、声の出し方、言い回し、動作、配役になりきること」「それぞれの楽器等の練習」「劇の大道具小道具づくり。細かい部分まで工夫した」「限られた時間内で全員の練習ができないときは個人練習」「カップスは石毛ゼミの初めての挑戦で、皆で心を合わせて頑張った」などの技術に関すること、「子ども達や利用者さんに、どのようにしたらわかりやすいか、楽しんでもらえるか工夫した」「企画をより楽しくするように話し合った」「先輩や仲間と多く関わろうとした」などがあつた。

管楽器は何年ぶりという学生もおり、これからの良いきっかけになったと思う。それぞれの学生の事情を考えながら、創意工夫して、努力する姿が見られた。

(7) 反省点

「もっと練習すべき」「みんなと協力して、もっと完成度の高いものにしたかった」「劇は、ゆっくと大きな声で話すべき」「通し練習が必要」「恥ずかしくて大きな声を出せなかった」などの

練習、技術に関すること、その他、「持ち物の準備と点検」「ゼミ同士の連携が必要」「自分の意見や目的をはっきりして活動に加わればよかった」「発表に精一杯で、まわりを見る余裕がなかった」との回答があつた。

「発表内容は、自分たちが楽しいだけでなく、子ども目線で考える」「もっと子どもの知っている選曲で行えばよかった」「ダンスを子どもの近くでやればよかった」「参加型にしたらよかった」など、発表内容についての回答があり、終わってみて、それぞれの立場での反省が出てきている。

(8) もっとやってみたかったこと

参加型のコンサート、ミュージカル、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、人形劇、パネルシアター、リトミック、大作の劇、子ども達と触れ合える遊び、難易度の高いベルの曲、お笑い(コント)との記載があつた。

また、「更に色々なアンサンブルをしたい」「カップスについて、もっと色々なことに挑戦したい(曲をメドレーにしたり、カップのリズムを変えたりダンスも入れたい)」との回答があり、新しい発想も生まれ、また現状よりも更に高度なことを、それぞれの目標に掲げている。

その他、「園で子どもと遊びたい」との回答があり、子ども、利用者さんと個別に関わることや、触れ合う時間をもっと作るという、ボランティアの本質的な部分を考える必要性も感じた。

(9) これから身につけたいこと

「積極性、表現力、協調性、発表者としての実力、コミュニケーション能力」「その場に応じた進行、アドリブ」「子ども達の引きつけ方、集中のさせ方」「気配り、行動」「自信をもてるようになりたい」「計画的に準備する」「恥ずかしがらないで全力でやる」「緊張しないで発表できること」「自分の伝えたいことを楽しく伝えたい」の他、ピアノの弾き歌い、ピアノ演奏、楽譜の編曲、難しいコードを使つての演奏が挙げられていた。

(10) 地域との連携について学んだこと

「企画、プログラム構成を話し合う中で、色々なアドバイスをいただいた。自分の意見も述べ、しっかり話し合うことの大切さを感じた」「共催の方の出し物から多くを学んだ」「自分たちの考えと違う視点での要望、意見を聞いた」など、地域から学ぶ大切さ、ありがたさを感じている。

(11) 保育者になって役立つと思うこと

「大勢の前での話し方、動き方、集中させる方法」「会の進め方、プログラムの組み方、選曲」「進行に際して、盛り上げたり落ち着かせたりするメリハリ」「劇の衣装や大道具小道具作り」「音楽を通しての子どもとの関わり方」「演技力」「演奏力」「手遊びのレパートリーが増えた」「ゼミで培った音楽活動」などが挙げられている。

2) 卒業生からのアンケート**(1) 学生時代に行なったボランティアで、現場で活かしていること**

保育園勤務5名、高齢者福祉施設勤務1名からの回答である。

①地域との連携

「年齢も考え方も幅広い方と話したり、初対面の人の前で発表した経験は、今のコミュニケーション力や話術につながっている」「音楽を通して、年代を超えて地域の方と連携しあっていく一歩になると思った。交流の輪を広げるツールにもなっていくと考えている。またその地域の方との関係作りが大切であると思った」「職員や、主催者の方への挨拶や打ち合わせでの会話力、流れなどを把握する力が、今役に立っている」との回答があり、学生時代に地域との連携を経験したことが、職場での地域活動に役立っているようである。

②努力したこと

「その場所にあった声の大きさ、話し方、進行の仕方などを事前に考え、シュミレーションするように心がけた。今でも事前のシュミレーションに活かしている」「個人練習だけでなく、感想を言い合ったり、時間を決めて進めていくことでメリハリをつけるなど、練習の仕方考えた」「演奏する側も相手側も楽しめる方法を仲間と話し合い、演奏の質を高めること、恥ずかしさなどを捨てることなど、仲間と一緒に目的をもって頑張った」「訪問する場所にあった選曲を考えたり、曲順の配慮、衣装など視覚からも楽しめるよう工夫を凝らした」との回答があった。その当時、彼らは、2ヶ月も前から授業後遅くまで何時間も練習をしていたと記憶しているが、演奏の向上のために、練習の仕方を工夫し、協力し合い、皆で頑張ったことは、大切な財産になっていると思われる。

③学んだこと、自分の変化

「老人福祉施設などでのボランティアで、自分の考え方や視野が広がる良い機会になり、ひきつけ方や伝え方を学ぶ機会が多く持て、プラ

スになった。人前で発表することが苦手だったが、いろんな方の表情を見たり、楽しさを共有できるなど、発表することに抵抗が少なくなり、自信が持てるようになった」「人前で発表することを少し楽しめるようになり、子どもの前では、どんな声掛けや手遊びが喜ばれるかを考えるようになった」「演出の工夫、ゼミ全体が心を合わせることの大切さを学んだ。利用者さんの笑顔から、次への意欲が生まれ、力もついてきて、やりがいを感じるようになった」など、特に苦手意識を持っていたことが克服でき、それが自信につながり、そこから更に成長し続けているようである。

④現場で役立っていること

「現在、保育士として、子ども達と老人福祉施設へ行く機会が多くあるので、どのようなことを一緒に楽しめるのかを考える時に役立っている」「保育の中で、音楽や楽器を通して、合奏する楽しさを子ども達に伝えながら、自分も楽しむことができている」「子どもへの呼びかけで、間のとり方、話し方、表情など、保育に活かすことができている。また、ボランティアの時、ゼミ生同士で協力し合ったことが、職場での職員同士の連携にも役に立っている」「衣装やお面を今でも使ったり、ヒントをもらうなど、現在も保育士の仕事に役立っている」との回答があった。音楽を通して楽しさの伝え方、間の取り方など様々なことを、保育に活かすことができ、また、職員間の連携という点でも役立っているようである。

また、保育園では、老人福祉施設との交流を図っており、学生時代での老人福祉施設のボランティアが役立っているとのこと、保育園と老人施設との関わりについて、考えさせられるところがあった。

(2) 地域貢献の一部である学園祭のゼミ発表から学ぶことにより、現在、活かしていること

「誕生会、新入児歓迎会、運動会、クリスマス会で、何をどのようにするかを考える機会がたくさんあり、ゼミ発表でどのように楽しんでもらうかを考えたことは今につながっている」「文化祭と同様に、保育士も、恥ずかしさを捨てることが必要で、また、園のイベントで、文化祭で行ったダンスや体操を活かすことができている」「ゲームを取り入れたことで、子ども達に喜んでもらった印象が残っていて、担当クラスで、それを取り入れている」「自分たちが全てを考え、協力しあった学園祭を思い出し、今職場の方でも音楽コンサートを定期的に行っ

ている」「学園祭では仲間同士の価値観の相違もあったが、認め合うことの大切さを学び、現在は、園のチーム内での自分の立ち位置を理解し、メンバーを認め合って仕事をしている」「学園祭の時のフルートとピアノ演奏は、今でも園の誕生会で行っている」との回答であり、学園祭での出し物を参考にしたり、現在もその時の演奏を継続して行っているとのこと。また、仲間同士の認め合うことの大切さを学び、今に活かしているようである。

(3) 今後の学生に望むこと

「挨拶などマナーは大切だと感じる。現場のことを知らなくて当然なので、逆にそれを強みに積極的にたくさんのことを吸収すると自分のプラスになるのではないかと思う」「学生の時に色々な経験をし、失敗を怖がらず、考えて行動することが大切で、何にでもチャレンジする気持ちを持ってほしい」「今でも緊張することはあるが、子どもの前では堂々としていると子どもは安心するのではないかと思う」「楽器もできず、人前で何かをすることも大の苦手だったが、音楽が好きな気持ちが、自分の力になったと思う」「色々なジャンルのボランティアを経験することは、仕事に生きてくるので、積極的に参加してほしい」との回答であり、失敗を恐れず、チャレンジしていくことが大切であり、多くを学べるボランティアを積極的に経験していくと良いとのこと。卒業生ならではの貴重なコメントをいただいた。

3) 来場して下さった保護者の方 (A 講堂ホールで行ったクリスマス会において)

(1) クリスマス会で良かったこと

「アットホームな感じで、学生さんの温かい気持ちと一生懸命さが伝わってきた」「親子で楽しい時間が過ごせた」「一つ一つのプログラムが短く、いろんなタイプのものが次から次へと出てきたので、子どもも飽きることなく、楽しめた」「手作りのセットや衣装も工夫されていてよかった」「一緒に歌える歌があつてよかった」「ダンスは、一緒に体を動かすことができよかった」「合唱がきれいで、楽器の演奏も素敵だった」「カップスは、初めて見たが、格好良く、楽しかった」「映像ではなく、本物の楽器や、人の演技などを実際に見ることができた」との感想だった。

(2) 子どもの反応について

「小さな世界、ジングルベルなど知っている曲をベルやカップスで演奏してくれた時は、口ずさんだり、体をゆらしていた」「色々な楽器に興味津々で、楽器の音に反応して喜んでいた」「2歳には、合唱

や楽器のメドレーは難しかったようだが、一生懸命聴いていた」「アルプちゃんや、サンタクロースのサプライズが嬉しそうであった」「3歳には、サンタクロースと魔女が怖かったようである」「0歳の子どもが、飽きずによく見ていて、特にダンスを見て笑って喜んでいた」「劇では、色々と感想を呟いていた」「手話を一緒に真似していた」との回答があり、こちらが予想した以上に、子ども達は様々なことに興味を持ち、楽しんでくれたようである。

(3) 今後の学生に望むこと

「子ども達は、お兄さんお姉さんが大好きなので、これからもいろんな場所で子どものコンサートをやってほしい」「劇は、小さい子でも、もう少し分かりやすいお話の方がよいのではないかと思う」「たくさんさんの劇を見たい」「言葉をゆっくりはっきり話すとよい」「進行が盛り上がりると更によい」「恥ずかしさを捨てて、子ども目線で取り組み、元気よく、自信を持って行うともっと楽しめると思う」「子どもと一緒に制作したりゲームなどして、遊んでもらえる時間があるとよい」「母が楽しむことができ、更に子育てを楽しむ良い機会なので、毎年続けて頑張してほしい」などの回答があった。学生達の思い、工夫、努力が伝わり、企画を楽しんでいただけたようである。そして、学生達を感じる反省点「「恥ずかしさの克服」については、やはり指摘があったと感じる。進行や台詞の話し方などのアドバイスや、今後の学生への温かい励ましの言葉も頂いた。

4) 共催、協力して下さった地域の方 (インタビュー) から

A. 障がい者施設

利用者さんへの影響、変化については、

「学生との交流を、毎回楽しみにしており、良い意味での興奮があるように感じる」とコメントをいただいた。

また、学生の様子については、「初回は緊張していた学生さん達が、回を重ねるごとに、利用者さんとも顔見知りとなり、雰囲気も理解して、積極的に利用者さんの中に入って、触れ合い、声をかけることができるようになってきている。話すことが出来ない利用者さんを配慮して、耳で聞く、見て分かるという出し物などを工夫して下さっている」と話してくださり、利用者さん達が学生達の工夫した発表を楽しみにして下さっている様子が分かり、学生達も、経験を重ねるごとに成長している姿がうかがえる。そして、学生達に望むこととして、「個別に話し、教えてもらうような機会を作って頂くと、ふれあう実感ももっともてるのではないかと思う。演奏など

を発表して下さる機会が定着してきたので、これからも続けてきてほしい」とのアドバイスをいただいた。

B. A講堂ホールクリスマス会

「学生さん達は、子ども達の視線を大事にしているので企画をお願いしているが、アイデアが豊富で、子ども達を楽しませるようなプログラムを作成している。内容も年々レベルアップしている。また、子ども達の反応を見て、対話を大切にしながら保育士らしい視点をもって、進行をしているように思う。学生さん達は保育という同じ方向を目指しているので、子ども達の気持ちを大切にしながら、協力し合うことができるのだと思う」とのコメントをいただいた。

また、学生に望むこととして、「子ども達に強要することなく、しっかり向き合い、子ども達を認めることのできる、保育士になってくれると嬉しい。是非、来年もお願いしたい」とのアドバイスをいただき、企画、進行など、学生の自主性を大切に、保育者としての成長を見守って下さっている。

C. S認定こども園

子ども達への影響、変化については、「劇の中の印象に残った演技を取り出して、学生の真似をした遊びが流行した。また合唱については、子ども達の知らない曲であったが、合唱というものに興味を持ち始めていたため、好評だった。子ども達の楽しい歌ばかりではなく、本当の合唱曲を聴くことも、違う意味でプラスであったことが、自分達にとっても勉強になった。その他、カップスが面白くて喜び、普段使っているコップが楽器になることに興味を持った。また、管楽器の生演奏は子ども達の良い経験になった」とのコメントであった。白雪姫の劇については、鏡を忘れてしまったため、鏡役の学生が、鏡になりきり、頑張って大胆な演技をしたことが、かえって子ども達の興味を惹きつけたようである。合唱曲については、「子どもの知っている曲の方がよかった」との学生の反省があったが、知らない曲であっても、ハーモニーの楽しさは、子ども達に伝わったようである。

また、学生の様子については、「素直な一生懸命さが伝わってきて、子ども達を楽しませようとしている気持ちがわかった。皆の和が感じられ、合唱がとても良かった。子ども達が、とても喜ぶので、これからも来てほしい」とのことで、温かい目で学生を見てくださっているようだった。

そして、学生達に望むこととして「一生懸命やるだけではなく、こんなことを感じてほしい、何を見

せたいかの思いを持って取り組んでほしい。その積み重ねにより、必ず中身がついていく」とのコメントであり、学生だけでなく、サポートする教員にとってもこれからのボランティアを考える上で、貴重なアドバイスをいただいた。

5. 考察

1) 学生の意識の変化

多くの学生が、「やって良かった」「もっとやりたい」と、達成感、満足感を感じ、自信につながったようである。現場に出て何が必要か、準備の仕方、気配り、連携、マナー、コミュニケーション方法を学び、「前回より余裕ができ子ども達の顔をみて行えた」と答えた学生がおり、回を重ねるごとに成長していく姿が見られた。

また仲間と更に親しくなり、相手を認めることの難しさや大切さ、思いやりの心が生まれ、仲間がいてこそできることの幸せ、喜びを感じている。

そして、受け入れてくださる地域の方への感謝の気持ちが生まれ、自分たちも地域の一員であることを認識する。

A講堂ホールとの共催関係者のインタビューにおいて「子ども達の視線を大事にしている」「子ども達の反応を見て対話を大切にしながら保育士らしい視点をもっている」という回答を頂いたことから、これらの経験を通して、将来の職業意識も徐々に芽生え、やる気、意欲も出てきているのではないかと考える。

しかし、その中で、ゼミのメンバーであるがため、仕方なく参加している学生もいた。他大学のアンケート結果においても、やはり活動に全く関心がない学生が少数いるようである³⁾。強制するものではないが、そのような学生に対して、どのように向き合うかが課題である。

2) 表現力の向上

学生の音楽能力には大きな差がある。楽器演奏、合唱に関しても、能力ある学生が苦手な学生を助け、その過程で何かが生まれ、それぞれの学びがある。

そして、たとえ未熟な演奏であっても、一生懸命に心をこめることにより、対象者と音楽を通じての心の交流が生まれる。そこから会場との一体感、幸せをかみしめ、音楽の楽しさ、素晴らしさを感じられる。アンケートからも、音楽の原点は、まずは楽しむことであると感じた学生が多数いた。

それぞれが更に高度な技術の向上を目指し新しいスタイルや発想が生まれている。

また、最終の発表においては、色々なトラブルが

あった。欠席者がいてベルのメンバーが足りない、白雪姫の劇に使う鏡を忘れた、時間の都合でプログラムの途中で打ち切りになった等。ベルのメンバーは、音楽の得意な学生に急遽加わってもらい、鏡については、「鏡がなくても僕が鏡になりきる」と大胆な演技力を発揮していた。途中の打ち切りについても、子ども達を楽しませるように上手に締めくくっていた。すべての学生が、「臨機応変さ」「子どもの目線で」「お互いを思いやって協力すること」等、そこから多くのことを学んでくれたことだろう。今後も学生の個性、感性、やる気を大切に见守っていききたい。

3) 現場保育士からの提言

学生時代、熱心にボランティア活動をしていた卒業生は、「たくさんのボランティアが、現場の色々な場面で役立っている」「学生達にたくさんのボランティアを経験して社会に出てほしい」と回答している。

前述でも記載してあるようにゼミで行う演奏会は、担当者との打ち合わせを除いてはゼミ生がプログラム構成を考えている。構成を考えることは難しく、意見の衝突もあり大変なのだが、就職してからのお楽しみ会の企画能力にも役立つので、是非積極的に参加して行ってほしい。

また聴き手を飽きさせずに楽しませる工夫や、曲と曲の間の司会の繋ぎなど配慮する点は多様である。自分のことだけに必死になるのではなく、落ち着いて周りを見て臨機応変に対応できる力が求められるのだが、これは経験によって培われる力だと感じる。人前で話す話術や自分自身が楽しむ気持ちの余裕や自信は何度もステージに立つことで力量が増えていくので、とにかく多くのステージに立って経験を積む中で様々な表現力を磨いてほしい。

そして、卒業生と一緒に劇や演奏会をする経験は学びの宝庫だ。あっと驚かされるような演技力や発想力、学生目線からは分からないステージ上の工夫が盛り沢山である。声の使い方一つで子どもの集中力は大きく変わったり、視覚教材によってより一層物語に入り込めるような細かな配慮まで徹底されていて、卒業生との体験は現学生にとって勉強になることばかりだ。卒業生との繋がりを大切に、様々なステージと一緒に経験することで学びに繋げてほしいと願う。

学生の内はどんなに失敗をしても仲間や先生方が助けてくれたり、次のステージがすぐに待っている。人前で発表できる機会を多く設けてもらっているゼミ生は、とても恵まれている環境にいるのだ。学生

であるとなかなかそのことに気づくことができないのだが、ボランティアが齎す学生の成長はかなり大きいと考えられる。失敗を恐れず、どんどん色々なことに挑戦していくことが自分の自信に、引き出しになっていくので積極的に参加することを勧めたい。

4) 地域との繋がり

前述のように、ボランティアを受け入れてくださっている施設、園では、学生達を支えて、育ててくださり、温かい交流が生まれ、心から感謝をしている。

また、保護者の方の回答から、親子で一緒に経験することにより、保護者の方も共に成長し合うものであることを感じた。子ども達、保護者の方、学生が共に学べるという視点でのボランティアも、今後、意識して行えたらと思う。

そして、ボランティア先の園に就職している卒業生、ゼミの卒業生からも、学生に対し、先輩ならではの貴重な温かいメッセージを送ってくださっている。また、学園祭、その他のコンサートを、卒業生と在学生在が合同で行うことにより、それぞれ深い絆ができていく。

地域の方々と、様々なつながりができることは、学生にとっても、教員にとっても、大変ありがたいことである。

5) 今後の課題

12月は、2年生については、卒論、就職活動で忙しいため、毎年、1年生が主になり活動している。良いものを伝えていくためには1年生2年生合同の活動が理想である。

1年生についても他のボランティアもあり、授業、実習、アルバイト等を行う中でこの音楽ボランティアを行うことは、様々な工夫が必要である。合津・保高・春日・横山も「ケアスペシャリストを目指す上でプラスとなる豊かな体験を短大全体に波及する方策を考えていく必要がある」と述べている2)。学生の実情を踏まえての実施方法については今後の課題でもある。

おわりに

学生にアンケートを実施することに関しては、学生にとっても体験したことを振り返り、自己の取り組み方、社会的課題、その他について考える機会となり、必要なことであると文献4) 5)の調査報告書で述べられている。

教員側も、ボランティアを行った後は、学生の気付きを積極的に活かせるような配慮を今後も工夫

し、保育者としての資質を少しでも身につけ、自信をつけてもらえるよう、ボランティアを通してサポートしていきたい。

最後に、本研究を進めるにあたり、ボランティアで多くの協力をしてくださった石毛先生、そして、アンケート、コメントに協力してくださった皆様に、心からお礼を申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 林悠子・東村知子「保育士養成校に求められる学生の資質について」全国保育士養成協議会 第51回研究大会 研究発表論文集 530-531 (2012)
- 2) 合津千香・保高一仁・春日仁子・横山芳子「幼児保育・介護福祉・看護 3学科合同〈地域ボランティア演習〉の成果と課題」松本短期大学研究紀要 第24号 11-20 (2015)
- 3) 多田内幸子・重永茂「幼児教育学科学生のボランティア活動に対する意識調査と課題」久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第34号 85-96 (2011)
- 4) 文部省研究開発委託事業 調査研究報告書
学校教育におけるボランティア学習の評価に関する国内調査結果報告 日本ボランティア学習協会 (2000)
- 5) 小・中・高等学校・大学におけるボランティア学習の評価のあり方についての調査研究報告書
ボランティア学習協会 (1999)
澤津まり子・堤幸一・立石あつ子「学生ボランティアの探索的研究」全国保育士養成協議会 第48回研究大会 研究発表論文集 170-171 (1999)
- 6) 得永幸子・佐々優・新宮久子・林里美「子どもオペレッタ公演の成果 ―地域の教育力向上の視点から―」全国保育士養成協議会 第52回研究大会 研究発表論文集 298-299 (2013)
- 7) 浜崎由紀「保育者養成における児童文化と地域連携 (1) ― 京都女子大学人形劇フェスティバルを中心に―」全国保育士養成協議会 第52回研究大会 研究発表論文集 578-579 (2013)
- 8) 鈴木希美「保育者養成における児童文化と地域連携 (2) ― 京都女子大学人形劇フェスティバルを中心に―」全国保育士養成協議会 第52回研究大会 研究発表論文集 580-581 (2013)